

■ 審査講評

審査委員長 本谷るり（大分大学経済学部教授）

13回目を迎えた「高校生なるほどアイデアコンテスト 2017」は、2017年11月5日(日)に最終審査会を開催し、各賞が決定しました。今年度のコンテストにご参加いただいた高校生のみなさん、ありがとうございました。そして、受賞なさったみなさん、おめでとうございます。また、各高校の先生方、保護者のみなさま、ご指導ご協力いただき誠にありがとうございました。

今年度より募集テーマを3つ設け①外国人観光客向けの新たな賞品・サービス、②地域資源(ひと、もの、情報、特性)の掘り起こしと活用でイノベーション、③子育て世代に役立つアイデア・サービス)、1,168件(1,221人)と多数の応募をいただきました。テーマに沿った作品であるか否かを事前審査で確認した後、1次審査で42作品を選出し、2次審査ではその中から10作品に絞り、最終審査会でそれら10作品のプレゼンテーションをしていただきました。

今回の最終審査では、どの作品も優劣つけがたく審査が難航しました。その中でもグランプリに輝いたのは、鹿児島県立市来農芸高等学校養鶏研究班のみなさん(福満陽奈さん、山口あやめさん、松本凜さん)の「埋もれている「鹿児島」をイノベーション」という作品です。天然記念物である「薩摩鶏(さつまどり)」をPRし地域活性化を図るアイデアが発表されました。鹿児島県薩摩鶏保存会へ出向いて調査を実施して課題点を探り、女子高校生ならではのと言えるアクセサリーの制作や、高校での飼育の提案など、堅実な取り組みが高く評価されました。

大分県教育委員会教育長賞には、大分県立大分東高等学校の the East spirit のみなさん(小又拓斗さん、御手洗良兵さん、佐藤未来さん、田尻愛美さん)の「汚泥再生化プロジェクト」が選ばれました。汚泥を堆肥化するアイデアはたくさんありますが、その際に出る「においとほこり」という課題を克服しようとする研究発表で、いくつもの実験と検証を重ねているものです。アイデアはもちろんのこと、それを検証し結果を確認し、さらに改善を図って進めるという研究プロセスも高く評価されました。

大分合同新聞社賞には、宮崎県立都城商業高等学校の TEAM 都商のみなさん(岸良美波さん、萬徳あかりさん)の「Surround baby and mother ～子と母を包み込む社会の形成～」が選出されました。地域の子育て支援センターの協力を得てアンケート調査を実施し、子育て世代の方の現状と課題を把握した上で、乳児との外出時におけるサービス(授乳室やお湯の提供)を地域の企業にも協力してもらい提供するというアイデアです。これにより地域内での新たなつながりも期待できるという点が評価されました。

また、審査委員特別賞である大分大学 COC+賞には、愛媛県立土居高等学校の伊予の水引ガールズのみなさん(井原千晴さん、宮崎真奈さん、近藤亜美さん、佐瀬唯菜さん、宮崎彩さん)の「水引シリーズ第2弾『あいらびDX(デラックス)』」が選ばれました。このアイデアは第1弾がすでに商品化されていますが、それに満足せず、より多くの人を楽しみながら水引をつくることのできるよう改善提案がなされています。伝統工芸を伝承するという意味でも地域活性化に一役買うアイデアとして評価されました。

いずれのアイデアも、若い高校生のみなさんの素直な疑問であったり、みながよくなるにはどうすればよいか、といった実直な想いから出発しており、たいへん好感が持てるものでした。そして、思いつきにとどまらず、実態の調査をし、トライアンドエラーを繰り返して実現化にとっても近いところまできていると感じられるものばかりでした。コンテストは終了しましたが、今後、ぜひそれぞれのアイデアを実現化し、新たなビジネスや社会貢献につなげていってほしいと期待しています。また、今回1、2年生で参加なさったみなさんは、来年もぜひ新しいアイデアを持ってトライしてください。みなさんのチャレンジをお待ちしています！

大分大学経済学部 高大接続教育室
〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
TEL&FAX 097-554-8527
E-mail kodai-s@oita-u.ac.jp
URL <http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/gp/>